

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 イーエムシステムズ
 コード番号 4820 URL <http://www.emsystems.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 國光 浩三
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 青田 玄
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

TEL 06-6397-1888

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-------|-----|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 21年3月期第3四半期 | 6,326 | — | △1,251 | — | △1,170 | — | △684 | — |
| 20年3月期第3四半期 | 8,402 | 0.5 | 822 | △31.5 | 845 | △30.2 | 467 | △29.9 |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 21年3月期第3四半期 | △86.13 | — |
| 20年3月期第3四半期 | 58.96 | 58.16 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | | 1株当たり純資産 | |
|-------------|--------|---|-------|---|--------|---|----------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 | % |
| 21年3月期第3四半期 | 17,518 | — | 6,681 | — | 37.5 | — | 825.25 | — |
| 20年3月期 | 18,680 | — | 7,542 | — | 39.8 | — | 934.98 | — |

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 6,562百万円 20年3月期 7,427百万円

2. 配当の状況

| (基準日) | 1株当たり配当金 | | | | |
|------------|----------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 年間 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 20年3月期 | — | — | — | 23.00 | 23.00 |
| 21年3月期 | — | — | — | — | — |
| 21年3月期(予想) | — | — | — | 23.00 | 23.00 |

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-------|-------|--------|---|--------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 9,675 | △14.3 | △1,179 | — | △1,278 | — | △716 | — | △90.18 |

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|----------------------|-------------|------------|-------------|------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 21年3月期第3四半期 | 7,952,550株 | 20年3月期 | 7,944,950株 |
| ② 期末自己株式数 | 21年3月期第3四半期 | 977株 | 20年3月期 | 937株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 21年3月期第3四半期 | 7,949,909株 | 20年3月期第3四半期 | 7,932,244株 |

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、3ページ【定性的情報・財務諸表】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機の影響を受けた急激な円高や株安により、企業収益が急速に落ち込んでおります。また、それに伴う雇用情勢の急速な悪化などから消費者心理が冷え込み、景気は後退局面に入っております。

このような経済状況のもとで、当社の主要顧客であります調剤薬局を取り巻く環境といたしましては、平成20年4月より施行された医療制度改正により引き続き厳しい経営環境が続く中、他業種も巻き込んだ再編が行われる状況となっております。当社は大手医薬品卸会社から小規模調剤薬局まで全方位的な事業展開を行っているため、業界再編は大きなマイナス要因とならず、むしろ当社の今後のビジネスには優位にはたらくものと見込まれます。

一方、医薬分業率は平成20年9月において57.8%となっており、前年同月の55.6%、また平成19年集計における57.2%と比べても上昇しており、徐々にではありますが着実に増加しております。また、平成21年4月から調剤薬局に対して段階的に義務化されるレセプトオンライン請求につきましては、義務化の期限が近づいていることから市場が動き始め、当該システムの導入に向けた動きが活発化しております。

このような状況のもと、調剤薬局向けシステム事業につきましては、平成20年11月25日より新製品であります「Recepty NEXT」の販売を開始し、順調にユーザー導入が進んでおります。本番稼動も進み、大変好評を得ております。5年前にリリースした「Recepty」は、販売当初、処理時間がかかるなどの問題がありましたが、「Recepty NEXT」はその経験を踏まえ品質チェックを十二分に行った結果、その点を懸念して静観していたユーザーの不安も解消されております。この「Recepty NEXT」より、従来の5年間無償保証付システム販売プランに代わり、ハードウェア等の初期費用及び入力処理件数に応じた月額使用料課金方式に全面的に切り替えました。また、それに先立ち、4月からはその課金方式を「Recepty NEXT」発売までの主力システム販売においても適用する、ビジネスモデル転換を図っております。このビジネスモデル転換は市場には受け入れられたものの、販売チャネル企業（主として医薬品卸会社）へのビジネスモデルの理解並びに浸透に時間を要しましたため、新たな販売モデルの受注件数は当初こそ緩やかな立ち上がりとなりましたが、6月頃より順調な伸びを示し始めました。また、6月以降は「EM-Recepty」のサポート終了に先立ち、「EM-Recepty」ユーザーに向けた「Recepty NEXT」提案等のフォロー活動を集中的に行い期初に見込んでおりました「EM-Recepty」のリプレイス件数1,014件に対し実績は1,269件となり、内訳として月額使用料課金方式へのリプレイスが1,038件（81.7%）を占め、課金方式への賛同を得たと確信しております。しかし、10月以降は「EM-Lines（レセプトオンライン請求）スターターキット」への問い合わせが激増し、それに伴う「EM-Lines」の敷設工事対応に活動時間を大きく費やしたため、システム提案活動がかなり制限されました。また、「EM-Lines」の回線未開通の受注分として283百万円を売上高から前受収益に計上しておりますが、受付スタッフの増員や敷設工事及びコンピュータ設定要員の増員を行い、9月と比較し約8倍の処理能力を上げております（12月単月処理件数約421件）。このことにより、前受収益は3月末でほぼ解消される見込みです。

10月以降には、急激な景気の低迷による調剤薬局の設備投資意欲の低下が見られ、また「EM-Lines」の敷設工事対応の影響で、システム提案活動が制限されたことにより、システム導入件数が伸び悩む結果となりました。第4四半期連結会計期間も引き続き、地方の薬局やチェーン薬局を中心とした投資の先送りの傾向が進んでおり、システムの販売件数予測が不透明になりつつありますが、4月の医療制度改正前需要に対応できるように、設備投資しやすい短期レンタルモデルや廉価版ハードウェアなどを投入し、需要を喚起してまいります。

ネットワーク事業につきましては、国立感染症研究所 感染症情報センターとの共同研究である「感染症流行探知サービス」利用薬局が着実に増加しており、感染症流行探知のネットワーク網は全国規模に広がっております。今期中の利用薬局3,000件を目標として、着々と準備を進めております。11月にはインフルエンザの流行状況をいち早く探知し、その結果は国立感染症研究所から高い評価をいただき、現在、世界的に懸念されている新型インフルエンザ・パンデミックの早期探知に対しても、大きな期待が寄せられております。また、大手調剤薬局チェーンやドラッグストアチェーンの店舗管理システムとしては、薬局間情報共有・統括管理システム「NET-α」を始めとする当社独自のASP技術基盤を活用した管理システム導入のための営業活動を展開しております。案件規模が大きいため受注までに時間を要するものの案件情報は増えており、来期以降の業績に寄与するものと見込んでおります。

医科システム事業につきましては、既存・新規の販売チャネルを活用した営業活動を引き続き行い、また新たな販売チャネル構築のための活動を展開いたしました。その結果、販売チャネルは拡大しつつあり、また、新規チャネルを通じて入手する情報は順調に増加、その中からの受注も増えてきました。しかし、導入までに時間を要する案件のため、当第3四半期連結累計期間においては計画通りの受注に至りませんでした。継続案件として引き続き受注に向けた活動を行っており、第4四半期連結会計期間以降の受注への繋がりが見え始めております。

調剤薬局事業につきましては、平成20年4月より施行された医療制度改正により、向精神薬・麻薬の長期投薬解禁による長期処方化の傾向が見られます。株式会社祥漢堂も例外ではなく、来局患者数、取扱処方枚数は見通しを下回って推移いたしました。売上高はほぼ見通しどおりとなりました。また、最終仕入価格が確定し、利益面につきましては当第3四半期連結累計期間において経常利益を計上いたしました。既存店舗の取り組みといたしましては、引き続き「患者様満足度の高い調剤薬局」を目指して薬剤師の接遇教育を行い、服薬指導の向上に力を入れております。そして、幅広く処方箋を応需し、売上高及び利益増加に繋がることを目指しております。他社との差別化を図るための活動として7月より開始いたしました、医師、薬剤師を対象にした漢方講座は順調に回数を重ね、他府県の遠方からもご参加いただくなど好評をいただいております。受講していただいた医師からの処方箋を応需するなど、ビジネスに繋がる広がりも見せつつあります。さらに、新大阪ブリックビルのクリニックモールに12月に新たに入居したクリニックからの処方箋を応需するようになりました。隣接の病院との病診連携も上手く機能しはじめ、徐々にではありますが患者数が増加しており、理想的な病診薬連携が進んでおります。

新大阪ブリックビルにつきましては、現在、約80%の入居率となっており、賃貸条件につきましても当社にとって有利な条件で決定しております。残りのスペースにつきましては引き続きテナント候補先が出てきております。また、クリニックモールにつきましては、当第3四半期連結累計期間において3クリニックが入居しており、空室部分につきましても候補先が出てきております。当期における家賃収入につきましては、テナント入居先との賃貸借契約におけるフリーレント期間設定のため、当初計画より1ヶ月程度計上が遅れ、当初計画を若干下回っておりますが、その後の収支は計画通り推移しております。また、直近の金融市場・不動産マーケットは低迷しておりますが、引き続きこの極めて優良なビル資産の売却、証券化等を視野に入れて有効活用する手法を常に検討し続けており、適時、適切な判断を行ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、6,326百万円、経常損失1,170百万円、四半期純損失684百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は、受取手形及び売掛金、未収消費税の減少により、前期末に比べ1,162百万円の減少となりました。

負債につきましては、長期預り保証金、前受収益の増加、並びに、未払金、繰延税金負債の減少により、前期末に比べ301百万円の減少となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績は、「EM-Lines」の回線未開通の受注分として283百万円を売上高から前受収益に計上しておりますので、売上高において進捗が遅れはあるものの、利益面においては計画通りの推移であり、平成20年11月7日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日) |
|-------------|--------------------------------|--|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 674,876 | 1,055,221 |
| 受取手形及び売掛金 | 1,720,892 | 2,621,882 |
| 商品 | 250,634 | 189,194 |
| 製品 | 1,638 | 816 |
| その他 | 569,395 | 730,161 |
| 貸倒引当金 | △1,079 | △1,449 |
| 流動資産合計 | 3,216,358 | 4,595,826 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1,507,687 | 1,585,173 |
| 土地 | 819,030 | 819,030 |
| その他(純額) | 410,065 | 532,533 |
| 有形固定資産合計 | 2,736,783 | 2,936,738 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 907,926 | 467,024 |
| その他 | 5,918 | 5,918 |
| 無形固定資産合計 | 913,845 | 472,942 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資不動産(純額) | 9,594,167 | 9,913,095 |
| その他 | 1,057,209 | 766,498 |
| 貸倒引当金 | △334 | △4,114 |
| 投資その他の資産合計 | 10,651,042 | 10,675,479 |
| 固定資産合計 | 14,301,671 | 14,085,159 |
| 資産合計 | 17,518,029 | 18,680,986 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 439,645 | 631,091 |
| 短期借入金 | 7,606,000 | 7,531,000 |
| 未払金 | 600,371 | 1,013,573 |
| 未払法人税等 | 4,443 | 157,913 |
| 賞与引当金 | 200,354 | 250,183 |
| その他 | 926,441 | 469,831 |
| 流動負債合計 | 9,777,256 | 10,053,592 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 217,923 | 200,660 |
| 役員退職慰労引当金 | 2,795 | 2,067 |
| 製品保証引当金 | 201,773 | 176,859 |
| 長期預り保証金 | 636,985 | 378,091 |
| その他 | — | 326,969 |
| 固定負債合計 | 1,059,477 | 1,084,647 |
| 負債合計 | 10,836,733 | 11,138,240 |

(単位：千円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,579,926 | 1,577,152 |
| 資本剰余金 | 1,551,031 | 1,548,257 |
| 利益剰余金 | 3,431,018 | 4,298,469 |
| 自己株式 | △712 | △699 |
| 株主資本合計 | 6,561,264 | 7,423,179 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 743 | 4,349 |
| 評価・換算差額等合計 | 743 | 4,349 |
| 新株予約権 | 119,288 | 115,217 |
| 純資産合計 | 6,681,296 | 7,542,746 |
| 負債純資産合計 | 17,518,029 | 18,680,986 |

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年12月31日)

| | |
|-----------------|------------|
| 売上高 | 6,326,767 |
| 売上原価 | 3,517,887 |
| 売上総利益 | 2,808,879 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,060,005 |
| 営業損失(△) | △1,251,126 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 2,188 |
| 受取配当金 | 212 |
| 受取地代家賃 | 467,348 |
| その他 | 14,634 |
| 営業外収益合計 | 484,384 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 52,443 |
| 減価償却費 | 345,625 |
| その他 | 5,592 |
| 営業外費用合計 | 403,660 |
| 経常損失(△) | △1,170,402 |
| 特別利益 | |
| 投資有価証券売却益 | 1,022 |
| 貸倒引当金戻入額 | 3,403 |
| 補助金収入 | 46,202 |
| 特別利益合計 | 50,627 |
| 特別損失 | |
| 固定資産除却損 | 11,685 |
| 特別損失合計 | 11,685 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △1,131,459 |
| 法人税等 | △446,720 |
| 四半期純損失(△) | △684,738 |

(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

| 当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日) | |
|---|-----------|
| 売上高 | 1,902,802 |
| 売上原価 | 1,080,085 |
| 売上総利益 | 822,717 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,372,476 |
| 営業損失(△) | △549,758 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 1,231 |
| 受取配当金 | 66 |
| 受取地代家賃 | 187,983 |
| その他 | 2,623 |
| 営業外収益合計 | 191,905 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 17,036 |
| 減価償却費 | 115,586 |
| その他 | 1,381 |
| 営業外費用合計 | 134,004 |
| 経常損失(△) | △491,858 |
| 特別利益 | |
| 投資有価証券売却益 | 1,022 |
| 貸倒引当金戻入額 | 1,253 |
| 特別利益合計 | 2,276 |
| 特別損失 | |
| 固定資産除却損 | 912 |
| 特別損失合計 | 912 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △490,495 |
| 法人税等 | △195,511 |
| 四半期純損失(△) | △294,984 |

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

（要約）四半期連結損益計算書

| 科目 | 前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期) |
|----------------|-------------------------------|
| | 金額(千円) |
| I 売上高 | 8,402,000 |
| II 売上原価 | 3,968,058 |
| 売上総利益 | 4,433,942 |
| III 販売費及び一般管理費 | 3,611,159 |
| 営業利益 | 822,783 |
| IV 営業外収益 | 46,716 |
| V 営業外費用 | 24,364 |
| 経常利益 | 845,136 |
| VI 特別利益 | 60 |
| VII 特別損失 | 2,257 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 842,939 |
| 税金費用 | 375,245 |
| 四半期純利益 | 467,694 |